

# 令和元年度 和歌山県立那賀高等学校 第1回学校運営協議会

- 1 日 時 令和元年6月4日(火) 15:00～16:30
- 2 会 場 那賀高等学校 応接室
- 3 出席者 委員8名 事務局(学校職員)6名
- 4 内 容 (1) 開 会  
(2) 校長あいさつ  
委員への出席に対する御礼  
  
(3) 那賀高校側出席職員6名自己紹介  
  
(4) 学校運営協議会委員8名自己紹介  
那賀高校との縁を入れながら自己紹介  
  
(5) 学校運営協議会 会長(議長)、副会長選出  
会長、副会長が選出された  
  
(6) 会長、副会長あいさつ  
  
(7) 協議題  
ア 令和元年度和歌山県立那賀高等学校 運営方針について(校長より)  
運営方針、教育目標、学校評価シートの説明  
看板に掲げている「自ら学び鍛える那高生」と「地域に貢献する那高生」を目標に掲げ、那高生が将来和歌山県に戻って、地域に貢献できる人物を育てるための具体的方策を説明。また、そのための教師人材の育成にも力を入れる。  
質疑応答、感想、意見等  
質問1 学習指導の箇所「判断力」を抜いている意図は  
・思考力・表現力・判断力のうちで、学習指導の中で特に力をつけるとしたら、あえて思考力・表現力と明記して強調することで授業を変える視点が明確になる。  
  
質問2 那賀高校の教育目標等はとてもわかりやすい。確認だが、この目標達成のため教員全員と校長は共通理解できているか。  
・那賀高校の教員は共通理解している。なれ合いではなくチームワークができている。  
  
感想 那賀高校は単なる大学進学の実績だけにとらわれるのではなく、生徒に人間力をつけるという先までを見通している。  
  
意見 関連して、最近の企業は出身大学よりも出身高校に注目している。つまり単なる受験勉強だけを行っている高校より、人間力をつけるような文武両道の本気で行っている高校の方が将来伸びると気づき始めている。加えて本当に変えていくには教員がこういった子供たちを育てるといふ共通理解をする必要がある。

\*校長より提起された令和元年度和歌山県立那賀高等学校 教育目標、運営方針、学校評価シート記載内容について、令和元年度那賀高校学校運営協議会委員全会一致で承認

イ 那賀高校 キャリア教育支援 講師バンク制度について（校長より）  
校長事業案説明

昨年度から始めた事業。大変好評に終わって嬉しかった。開催回数は学校に任せてもらったが、行事等を鑑みて今年度も1回で開催。

質問 昨年度は延べ何名の講師に来てもらったか。バンクとしては何名ほしいか。

・昨年度は延べ50名。バンクとしては60~70名確保したい。「あなたも一度やってみないか。」とロコミが広がればありがたい。

意見 商工会に関して、行事日程が早く決定し、連絡いただければ、チラシ等配布して情報提供等の協力体制は整っている。

\*那賀高校 キャリア教育支援 講師バンク制度について、今年度も1回開催。方向性についても昨年度と同じ形式で継続して行うことで了解。

ウ その他

① 那賀高校 制服に関する検討について（校長より）

今年度検討する大きな柱の一つとして制服に関する検討。

トランスジェンダー等の問題、セーラー服の機能性の問題等々諸問題について検討委員会を立ち上げ、制服を変えるというのではなく、柔軟に対応できるルール作りを検討する。

\*制服を変えるということが第一義的な目的ではなく、今の制服の機能性も含めて、何か考える要素があるか検討に入るということで了解。

②現地研修（修学旅行）について（校長より）

今までは「総合的な学習の時間」を用いて、研修先を数か所用意して、生徒に選択させ、行先を勉強して現地研修に行くという方向性を持ってやってきた。しかし、複数方面選択による諸問題もあった。今度の新学習指導要領で「総合的な学習の時間」から「総合的な探究の時間」になることによって、新たに開発部を設けて完全なものに作り上げている。そのため、行先を一方面にしていわゆる修学旅行として2泊3日の日程で普通科を変えていこうと動いている。

\*「探究の時間」を開発していくという那賀高校の強い思いがあり、その分、現地研修を切り離して特別活動の領域の中で目的を達成するということで了解。

③国際交流について（校長より）

国際交流関係は大きな流れの中で、30年の長きにわたって行われてきている。最近では海外に留学したいから自宅が遠距離でも那賀高校を選ぶという傾向が強くなっている。また、国際交流会のバックアップもあって、うまくいっている。諮るというよりも本年度の事業計画を紹介して皆さんに知ってもらいたかった。

\*学校としては一定の流れの中で定着している状態である。これだけたくさんの交流が定着しているというのは、やはり30年間やってきた実績があるから。了解。

(8) 閉会

校長謝辞

- 5 資料
- (1) 平成30年度学校要覧
  - (2) 平成31年度入学生用学校案内パンフレット（日本語版・英語版）
  - (3) 平成30年度育友会だより、国際交流会ニュース Vol.23
  - (4) 平成30年度和歌山県立那賀高等学校学校運営協議会議事録

